

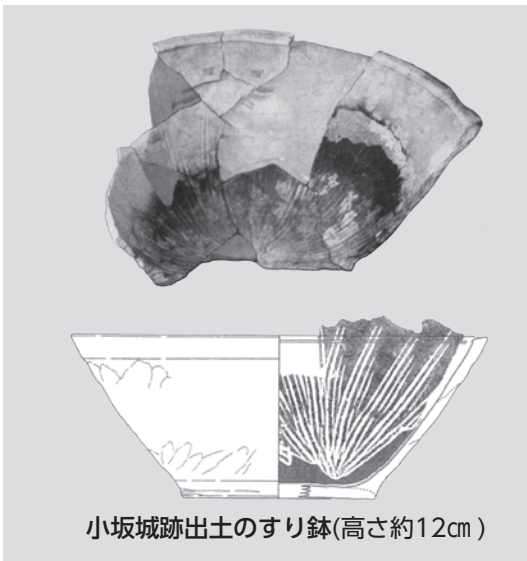


牛久のお宝

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

第17回 中世のすり鉢ばち

—小坂城跡(小坂町)—



小坂城跡出土のすり鉢(高さ約12cm)

◆今回紹介したすり鉢は、中央生涯学習センター展示ホールで展示中

小坂城跡は、平成21年度から公園整備に伴う発掘調査が行われ、中世のすり鉢などが発見されました。すり鉢のおろし目は4本1単位の櫛歯状くしばじょう工具で、底から口の部分に向かって放射状に施されています。中世のすり鉢は、おろし目が粗く、内側全面に施されていないのが特徴です。現在のすり鉢のように、おろし目が全面に細かく施されるようになるのは江戸時代以降と言われています。片口がついたものもあり、山芋をすったとろろ汁のように汁気のあるものを別の容器に移す必要があったのかもしれない。すり鉢の使用によつて、すりつぶす、混ぜ合わせる、こねる料理が盛んにつくられるようになりました。すり鉢が当時の人びとの食生活や食文化に与えた影響は大きかったと思われまます。

里山の樹木

問 都市計画課 ☎内線2524

第48回 タブノキ



①タブノキの樹形:城中町牛久沼東斜面林下部(平成24年5月25日撮影)
 ②果実:城中町牛久沼東斜面林(令和元年5月28日撮影)

クスノキ科タブノキ属の常緑広葉樹の高木。全国的には本州、琉球、県内では南部や北部の海岸に分布する照葉樹林の代表樹です。市内では希少で、城中町の牛久沼東斜面林下に幹周2・8mの巨樹が一本あるだけ

で、観察の森に植栽樹がありません。葉は互生、枝先に集まってつき、若葉が紅色でとても美しいのが特徴です。葉身は長さ8〜15cmの倒卵状長円形で、表面は革質で光沢があります。5月頃、新葉と一緒に枝先から伸びた円錐花序に黄緑色の小さな花が咲きます。果実は径約1cmの扁球形で、7〜8月に黒紫色に熟します。名前は、韓国語で丸木舟を指す「タブ」を作る木に由来するというのが一説です。

※牛久の里山樹木ハンドブック65ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章・写真:戸塚昌宏)

文芸さろん | 師走 |

残照の山並み色冬を知る
 鯛焼を両手にかかえ吾子は背に
 今朝の冬予約のパーマかけにいき
 初時雨久びさ流すイヴ・モンタン
 暗黒の空にはじけて光る火の
 消えゆく様は命にも似る
 千し大根真似て我が身もしなやかに
 鯛焼の餡食み出してあ、うまい
 旅づかれあつあつ鯛焼がぶり喰む

和多田さん
 空
 富美子
 サッコ
 匿名希望
 金子さん
 一朶
 涼

<次回募集テーマは「冬」>

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
 【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1
 「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512
 E:kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
 【記載事項】作品、氏名、電話番号
 匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)